KSKQ （ファースト・ラン NO.123） 第三種郵便物承認 通巻第 11290 号 2026 年 10 月 8 日発行(1)

～多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために～ 2026年9月

KSKQ ファースト・ラン NO.123

～ために ではなく ともに～



推進協 二〇二六年度通常総会 開催

2026年6月に推進協2026年度通常総会をささゆり園にて開催しました。

今回の通信では総会の様子もお伝えしたいと思います。

※ＨＰではカラー版でご覧いただけます。

目次

- ■ 2026年度通常総会報告
- ■ 推進協ヘルパー紹介
- ■ コラム 「ここだけじゃない話」
- ■ やまゆり園事件から10年
- ■ 推進協ヘルパー募集・会員募集

ファースト・ランは、電子版でもご覧いただけます ★https://www.suisinkyo.net/first-run

推進協2026年度通常総会 報告

６月２７日に開催されました推進協通常総会の状況（活動及び決算報告、質疑応答、活動計画及び予算など）について以下、ご報告いたします。

1，総会概要

・開催日時：２０２６年6月２７日（土)、開催場所：ささゆり園

・審議事項など

第１号議案：２０２５年度事業報告及び活動決算

第２号議案：定款変更

報　告　　：２０２６年度事業計画及び活動予算

2，第１号議案：２０２５年度事業報告及び活動決算

※居宅等介護事業　スイミー

成果：新規ヘルパー採用、医療的ケア可能ヘルパーの増員、研修実施、ヘルパー派遣拡大。

課題：ヘルパー不足解消、介護忘れや利用者見失い防止、新規利用者の獲得、業務改善。

※共同生活援助事業　結

成果：女性職員採用による体制強化、レクレーション企画実施、世話人の積極的採用。

課題：職員退職による業務過多、世話人不足の解消、入居者への適切支援、女性グループホームの欠員補充、服薬漏れなどの事故防止。

※相談支援事業　ライフタイムミント

成果：多機関連携で医療的ケア支援実施、介護保険との連携、他相談事業所への引き継ぎ。

課題：増加する相談依頼への対応、複雑困難ケース対応、相談支援員の増員と技術向上。

※ヘルパー研修事業

重度障害者訪問介護従事者養成研修は未実施。２０２６年度の開催を目指す。

※対外広報活動

年２回発行。内容の更なる充実と年４回発行が課題。他ＳＮＳの定期更新も必要。

※決算報告

最終的に約３０７万円の赤字決算。事業収入の落ち込みや職員採用による人件費の増加が主な原因。

※監査報告

２０２５年度の当法人の事業運営は適切に実施された。

(次ページにすすむ)



【質疑応答】

Q：国で定められているＢＣＰ研修、虐待防止研修、感染症対策委員会の実施状況は？

A：予防と防災の２種類のＢＣＰ研修を各事業で実施。管理者での防災シミュレーションも実施。虐待研修は各部門で実施。全体での虐待研修を２０２６年度に実施予定。感染予防会議は産業医を交えて定期開催している。

Q：居宅介護の介護忘れや遅刻が多い。最近も介護忘れがあったが対策は？介護忘れやヘルパー不在は利用者の命の危険にもつながるので対策が必要。

A：最近の介護忘れは利用者の家族構成の変化に伴う連絡調整ミス、ヘルパーの勤務日認識違いが要因。再度、家族やヘルパーとの連絡確認を徹底する。

Q：グループホームでの世話人支援について課題を挙げ対応とのことだが具体的には？前任職員と世話人が二重になって混乱したのか？

A：前任職員が長期間、過度に世話人業務に携わっていたため世話人の支援認識が低くなっていた。新たな職員が改善に取り組んでいる。世話人と意見交換し、世話人の労働環境を整えるとともに入居者支援の改善も図っている。

Q：決算報告では職員不足なのに赤字。職員不足で事業が出来ず赤字になったのか？また赤字の主な要因は？

A：赤字の主な要因は新規職員採用による人件費増加、グループホーム世話人人件費の増加、事業収入減少、特に居宅事業収入の減少など。

Q：厚生労働省は基本報酬を上げずに処遇改善加算の増額で対応。処遇改善加算の対応は？

A：処遇改善加算は、各事業ごとに各事業の実態に見合った内容で申請している。

【採決】一括採決を行った結果、多数の承認をもって可決承認された。

3，第２号議案：定款変更

定款変更（役員会開催を定款に追加記載する）を提案し、多数の承認をもって可決承認された。

(次ページにすすむ)

4，その他：２０２６年度事業計画及び活動予算（各部門の重点目標）

※居宅等介護事業　スイミー

虐待防止研修実施、ＢＣＰ対応、感染症対策、戦略的ヘルパー採用、業務の効率化。

※共同生活援助事業　結

週末世話人確保及び世話人業務の改善、地域連携推進会議の開催、女性入居者の欠員解消。

※相談支援事業　ライフタイムミント

常勤職員１名の採用と育成、事業所間の役割分担と連携強化、業務の適正化効率化。

※ヘルパー研修事業

夜間勤務可能なヘルパーの確保に向けて養成講座の開催をめざす。

※対外広報事業

体制を強化しＳＮＳ活用含め情報発信の更なる充実を図る、紙面の更なる充実をめざす。

※２０２６年度活動予算

全体では 6,266,000円の黒字、収益事業差額では 11,818,000円の黒字予定。職員給与は２０２６年度より新たな給与規定で支給。賞与も夏季冬季ともに基本給一月分の支給に改定。２０２６年６月の処遇改善加算も職員給与に充てる。

【質疑応答】

Q：定款はホームページで閲覧可能か？

A：ホームページに定款は記載していないが記載を検討する。会員には入会時に配布している。

Q：人手不足解消、戦略的採用実施の具体的内容は？福祉職場はどこも人手不足。労働条件が厳しいので職員採用に苦労。職員が採用できないとサービス提供不可で利用者が困る。

A：採用活動は各事業毎に実施。採用媒体活用が主な手段。採用後の定着支援も重要。

Q：広報誌の内容は？

A：「ファースト・ラン」が法人全体で年４回発行、居宅事業内部の情報発信として「かわら版」を随時発行。利用者や障害当事者の声を載せることを重視し更なる充実をめざす。

Q：予算作成時、新規採用予定なら人件費を増額する。推進協の２０２６年度予算は決算と比べて収入は 6,000,000円増額なのに全体人件費が低くなっているのはなぜか？

A：２０２６年度活動予算は２０２４年度並みに減額。２０２５年度予算も黒字想定が事業収入の減額などで最終的に赤字。２０２６年度の処遇改善加算も金額不明のため予算未算入。

今後も障害当事者と家族の立場に寄り添いながら適切な事業運営に努めて参ります。

引き続き皆様のご指導ご鞭撻、叱咤激励をよろしくお願いします。



推進協ヘルパーさん紹介

推進協ヘルパー　ハッカ隊長

ガイドヘルパーとしてお世話になり、２年目になりました。この仕事を続けられている理由は、利用者さんと一緒に私自身も楽しめるからです。

利用者さんに合わせて担当職員と相談し「どこなら楽しんでもらえるかな」と行き先を考える時間は、毎回ワクワクします。最近はハイキングへ出かけることが多く、危なくないコースや、その日の気温に合わせて無理なく歩けるコースを探すのも楽しみの一つです。山の中を歩いていると、利用者さんの表情はとても穏やかで、自然の中だからこその笑顔がたくさん見られます。

先日のハイキングでは、思わぬハプニングがありました。前日に雨が降っていたこともあり、山には想像以上の蚊が…。利用者さんのお母さまが「虫に刺されないように」と手作りのハッカ水を準備してくださっていたので安心して出発したのですが、その日はハッカ水をスプレーしても、スプレーしても蚊がどんどん寄ってきます。

最後は二人で「わー！」「逃げろー！」と大騒ぎしながら走って逃げることになり、気がつけばハッカ水は使い切って空っぽになっていました。

帰り道では、その出来事を思い出して二人で笑い合いました。家に帰ってから気付いたのですが、あれだけ蚊に追いかけられたのに、二人とも全く刺されていませんでした。あれだけスプレーしたので、手作りのハッカ水がしっかり効いていたのかもしれません。大騒ぎした出来事も、今では楽しい思い出です。

大変な出来事も、後から振り返ると笑い話になります。そんなハプニングも含めて利用者さんと一緒にたくさんの思い出を作れることが、この仕事の魅力だと感じています。

これからも安心・安全を第一に一緒に楽しい時間を過ごしていきたいです。



ここだけじゃない話

『めんどくさい料理が、少しだけめんどくさくなくなったはなし』

私はものぐさな人間である。同時にめんどくさがり屋だ。自覚はあるがあらためて文字にすると人としていかがなものかと感じる。……まぁ、いい。

今後も合理的に時間と労力を最小限に抑えて人生を営んでいきたい。要は、楽して暮らしたいのだ。

ただ、障害がある日常生活はひとつひとつの動作に体力を使い、時間もかかる。例えば、全力で掃除をする。その疲れを感じながら、さらに全力で洗濯もする。こうして疲れ果て、外出する体力がなくなっていた。というようなことがある。

楽して暮らしたい欲の深さも、するべきことと心が満足することにバランスよく効率的に体力を使おうとしているのではないだろうか。人生を充実させるために『めんどくさがり』な性格がある。哲学的な何か意味がありそうだ。

なにも、ものぐさな人間でめんどくさがり屋だとカミングアウトしたかったわけではない。これからが本題である。『料理』とは。もし私の辞書があればこう書くだろう。

一、ものぐさな人間は、作ってもらう。もしくは、買うの二択

二、めんどくさい要素がふんだんに盛り込まれ、やる気がどんどん削られる家事

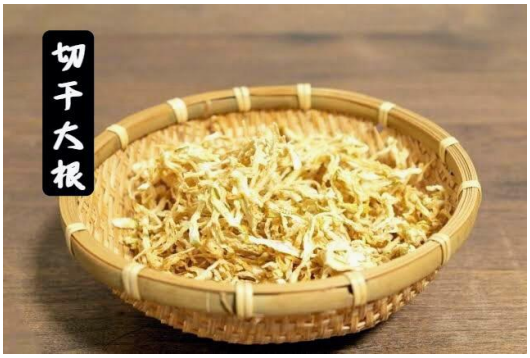
こんな私でも一人暮らしになった時を想定しながら、数十年間生活をしてきた。なにもかも自分でできるようにしたのではなく、『できること』『できるけど疲れること』『できないこと』を大まかに3つに分け、さらに『できるけど疲れること』をどの部分に体力を使ってしまうのか、どう工夫すればいいか等、細かくみていった。その甲斐あってか人生の大きな節目にあってもさほど困ることなく暮らせた。

だが料理はというと、若かりし頃に料理を半年間ほどして、一生分の料理したぐらいの達成感があったし、たまに料理しても野菜数種類を皮を剥いて切るだけで 30分かかると、やってられるかー！と気力消失していた。そうそう、洗い物を減らそうと、ご飯のうえに焼き魚と酢の物をのせて食べていたら家族に気持ち悪がられたこともあった。

ざっと思い出してもこんなことだ。体力云々の前に料理する気すらないことがうかがえる。

しかし、時はきた。コロナ禍のある日、ふと料理をしてみようという気になったのだ。

（次ページにすすむ）



その日を境にして高野豆腐、切干大根、ひじき。それぞれの煮物を味付けはめんつゆだけで順番に作っていった。一通り作ったらまた、高野豆腐、切干大根、ひじきのローテーションで煮物を作っていく。そしてまたと……いうように、くり返し作り続けた。

大好物なものでもなければ、誰かの胃袋を掴みたかったわけでもない。ほぼ包丁を使わないので楽だ。作り続ける理由は単にこれだけだった。

この先も作り続けていくのかと思ったころ、高野豆腐と人参を炊いてみよう、ひじきは油揚げと大豆が合うかも等、アレンジしてみたくなってきたのだ。あれほど避けたい包丁を握ろうとしているではないか。今思えば煮物のヘビーローテーションで成功体験を積み上げたことが日常生活になじませていっていたのかもしれない。

月日が流れ、今では料理が楽しくてたまらない。なんてこともなく、一言でまとめてみると、めんどくさい料理が少しだけめんどくさくなくなった料理になり、同時に二品を作れるようになった。

もちろん、包丁を使ってだ。

『因縁の包丁』を使うようになったいきさつは、またの機会に。

高井　恵子





※今後も高井恵子さん「ここだけじゃない話」としてシリーズ化いたします。

やまゆり園事件から10年、「地域でともに生きる社会」の実現に向けて

社会を震撼させたやまゆり園事件から今年で１０年、各地で様々な追悼イベントが開催され、改めて「地域でともに生きる社会」の実現が強く叫ばれています。

この事件において犯人は、

・意思表示できない重度障害者を殺害。

・重度障害者殺害は社会にとって有益。

などと「優生思想」の立場から「生命を選別、序列化」し凄惨な犯行に及びました。その衝撃は１０年たっても決して消え失せるものではありません。

この事件を受けて、「地域でともに生きる社会」の実現が強調されるようになりましたが、その後どれだけの進展があったと言えるでしょうか？

強度行動障害、要医療的ケアなどの「地域生活の実現」には未だに多くの困難があり結局、入所施設に頼らざるを得ない状況が続いています（大阪では入所施設の待機者が多数にのぼっています）。他にも、各地で問題になる「施設コンフリクト」などもあり、「地域でともに暮らせない現実」がそこかしこに存在しています。

これではいけない、何とかしなければと思いつつ、、、推進協において相談支援業務に従事している私も障害当事者家族から様々な相談依頼があった際には、「学齢期なら放課後等デイサービス」「成人期の訓練なら就労継続B」「重度の方の通所なら生活介護」「暮らしの場を探しているのならグループホーム」などと、結局のところ「障害児者福祉制度の枠内」での利用を日々、促進調整しているのではと自省することが多々あります。



制度利用により障害状況に見合った専門的支援を受けられるというメリットがあるとはいえ、これでは「地域でともに生きる」のではなく「地域で住み分けて暮らしている」に過ぎないと指摘されると返す言葉が見つかりません。

本当の意味での「地域でともに生きる社会」の実現には何が必要なのか？今後も試行錯誤しながら追求したいと思います。

推進協ライフタイムミント　福永　英司



推進協では左記の条件でヘルパーとして働いて頂ける方を大募集してます。

ヘルパーの仕事に興味関心がございましたら是非ご連絡下さい。

まずは、ヘルパーの仕事内容を聞いてみたい、というのでも大歓迎です。

皆様からのご連絡を心よりお待ちしております。

かいいんぼしゅう
会員募集

推進協は、今後も障害のある方々にとって暮らしやすい社会づくりに向けた活動を続けていきます。そんな法人の理念、活動方針にご賛同いただける方を引き続き募集いたします。

ねんかいひ 年会費

団体会員	：1口	10,000
個人正会員	：1口	2,000
個人賛助会員	：1口	1,000

■お問い合わせは(072)723-3342（担当：岡部）

★私たちは地域でこんな活動をしています★

居宅介護等事業（スイミー）



地域で暮らす障害のある方に在宅支援やガイド支援を行っています。

相談支援事業（ミント）



生活の中でのさまざまな困りごとについてお話を伺い、必要な情報をお伝えしていきます。

共同生活援助事業（結）



自主性を大切に、様々な手助けを行いながら地域生活を支援しています。

その他の事業



他、対外的広報誌の刊行事業、ヘルパー研修事業などを行っています。
※休止中の事業もあります。

■法人案内■ ご相談、ご依頼は下記事務所へお問い合わせください。

●法人本部

実施事業：居宅・重度訪問・移動支援・同行援護のヘルパー派遣事業・相談支援事業・共同生活援助事業

〒562-0001 大阪府箕面市箕面4丁目8番30号

【居宅・重度・同行・移動・ G H 】TEL：(072)723-3342 FAX：(072)723-6506 Email：JDW07270@nifty.com

【相談】TEL：(072)720-6806 FAX：(072)723-6506 Email：life-time-mint@mbr.nifty.com

公式 H P ：https://www.suisinkyo.net

【編集後記】

このところの外国人政策厳格化に沿った数々の制度変更に怒りを覚えております。我々介護福祉の現場でも多くの外国籍職員が就労活躍しております。コンビニや外食産業も同様です。外国籍職員に依存する一方で「管理統制、費用負担強化」を図ろうとする昨今の風潮。日本は卑弥呼の時代、いやそのもっと前から「外国との交流交易、渡来人等の外国人材受け入れ」で発展進歩してきた歴史を忘れ去ったのか！！と叫びたくなります。多文化共生の歩みを停めてはなりません。

（福永 英司）

編集人／特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

〒562-0001 大阪府箕面市箕面4丁目8番30号 電話072-723-3342 FAX072-723-6506（担当：福永・太古・上原）

E-mail：JDW07270@nifty.com 郵便振替：00990-4-116066 公式 H P ：https://www.suisinkyo.net

発行人／関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル 4階

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月（1・2・3・5・6・8の日）発行 定価百円